

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	大同DMソリューション株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	大阪府大東市氷野3-152
工場等の名称	大同DMソリューション株式会社 生産本部 名古屋工場
工場等の所在地	愛知県名古屋市港区竜宮町10
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	熱処理に関する事業
計画期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年6月26日 ~ 令和5年9月24日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 構内掲示板
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-691-8004		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- ◇名古屋工場の効率的運営を図り、工場運営のためのエネルギー使用量の抑制を進める。
- ◇製造工程におけるエネルギー使用方法の改善を推進し、温暖化ガス排出の抑制を図る。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

- 生産重量に合わせて、使用する電気炉を選定、計画停止及び適正化。
稼働する際は、充填率を向上させ、不要なエネルギー消費削減を実施。
未使用時は電源遮断を実施し、待機電力等も削減、省エネルギー化も推進。

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,627	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,627

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス 総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂				
削減率（対 基準年度）			%		%	%	%	%
温室効果ガス みなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					%	%	%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの 排出量	1.283	t-CO ₂ / t	1.245	t-CO ₂ / t	1.316	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t
削減率（対 基準年度）			3.0 %		▲ 2.6 %	%	%	%
原単位あたりの みなし排出量					t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t	t-CO ₂ / t
削減率（対 基準年度）					%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

<p>【目標の達成】</p> <p>未達</p> <p>【未達理由】</p> <p>電気炉の適正化は都度実施しましたが昨今の情勢影響を受け 基準年度対比生産量が▲4% [▲90t]、目標削減率未達。</p>

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>◆ 3 室 [加熱室、保温室、冷却室] 式真空炉のポンプ効率化 現状 1 5 hr / 2 4 hr稼働している上記 3 室のポンプを必要時以外停止させ 省エネ化を図る。 ※ 2 3 年度に費用対効果検討→実施。</p>
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--